

2015年10月 日

各市町村長 様
各市町村議会議長 様

(陳情団体) 愛知自治体キャラバン実行委員会
代表者 森谷 光夫
名古屋市熱田区沢下町9-7
労働会館東館3階301号

介護・福祉・医療など社会保障の施策拡充についての陳情書

【趣旨】

2015年4月から「改正」介護保険制度と介護報酬の改定が実施されました。2014年6月18日「地域医療介護総合法」に続き、2015年5月27日には、医療保険制度等の見直し関連法が成立しました。国保の都道府県単位化、入院給食自己負担、「患者申出療養制度」創設による混合診療の拡大、大病院への紹介状なしの受診時定額負担の導入など、国民・患者負担増の医療保険制度改悪が実行に向け準備されています。

安倍内閣は、「戦争できる国づくり」と「企業が一番活躍しやすい国づくり」にむけ、暴走を続けています。社会保障における国の役割は「自助・自立のための環境整備」とし、「自然増も含め聖域なく見なおし、徹底的に効率化・適正化していく」としました。2014年末の財政制度等審議会「建議」の、医療・介護予算の「自然増」を半分以下に削減するよう求めたことに沿った形になっています。

6月30日に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針2015(骨太の方針)」は、16年度から18年度までの3年間を「集中改革期間」と位置づけ、さらに社会保障の歳出見直しに「重点的に取り組む」と明記。社会保障予算の自然増抑制額は3年間で9000億円から1兆5000億円とされており、秋から年末にかけて新たな「削減計画」として、後期高齢者医療の1割負担を2割に、受診時定額負担(保険免責制)導入など検討されています。同時に、「日本再興戦略改訂(新成長戦略)」では、「法人税実効税率の2割台への引き下げ」と「社会保障費の自然増抑制」、戦略市場創造プランの第1に『国民の「健康寿命」の延伸』として「健康長寿社会」をビジネスの拡大チャンスと位置づけました。企業参入で公的保険外のサービス産業の活性化をめざす一方、医療・介護・福祉の分野が営利企業の市場として開放され、弱者の切り捨てが懸念されます。

「2014国民生活基礎調査」では、生活が「苦しい」とした世帯は前年比2.5ポイント増の62.4%で、過去最多となっています。1世帯当たり平均所得は前年比1.5%減で、ピークの1994年の8割程度です。アベノミクスと消費税増税および社会保障改悪によって格差は拡大しています。住民の生活を改善し充実させることが、待ったなしの課題となっています。今こそ、憲法、地方自治法などをふまえて、国の施策に左右されることなく、住民の利益への奉仕を最優先する自治体の役割が重要になっています。

私たちは住民の暮らしを守り改善する要求を掲げ、市町村に要請し、多くの要望を実現していただきました。ひきつづき政府の社会保障改悪に反対し、住民の命と暮らしを守るため以下の要望事項について、実現いただきますよう要請します。

記

【陳情事項】—★印が懇談の重点項目です—

【1】県民の要望である福祉施策を充実してください。

1. 安心できる介護保障について(保険課)

★(1)介護保険料・利用料について

①介護保険料を一般会計からの繰り入れや基金の取り崩しによって引き下げてください。

保険料段階は低所得段階の倍率を低く抑え、応能負担を強めてください。

介護保険料については、法に基づいて算定しており、一般会計からの繰り入れは出来ないと認識しております。また介護保険準備基金は第5次介護保険計画期間で使い切っております。第6次介護保険計画期間における介護保険料は、低所得者への保険料は第1段階は基準額の0.45、第2段階は基準額の0.58、第3段階は基準額の0.70とし、応能負担を求めるために保険料段階9、10を新設しました。

②介護保険料および利用料の低所得者への減免制度を実施・拡充してください。
法令の範囲内で実施しています。

③補足給付の申請手続きの見直しで介護保険施設入所者が利用できなくなることはやめてください。資産の確認など必要以上にプライバシーを侵害しないでください。

法令の範囲内で実施しています。

(2) 基盤整備について

★①特別養護老人ホームや小規模多機能施設等、福祉系サービスを大幅に増やし、待機者を早急に解消してください。

第6次介護保険計画における施設整備については、尾張福祉中部圏域において検討しており、現段階では、特別養護老人ホームや小規模多機能施設等、福祉系サービスを大幅に増やす予定はありません。

②地域包括支援センターを中学校区ごとに設置し、原則、市町村直営としてください。
本町の中学校は1校で、地域包括支援センターは直営1ヶ所です。

③サービス事業所に対する事業費の支給は現行の予防給付の額以上の単価を保障し、サービスに見合ったものとしてください。

介護給付費については、法令に基づき支給します。

④介護・福祉労働者を充分に確保するために、適正な賃金・労働条件および研修についての財政的な支援をしてください。

財政的な支援をする考えはありません。

(3) 総合事業について

①総合事業移行にあたっての考え方

★ア. 総合事業への移行にあたっては、現在、介護予防訪問と介護予防通所介護を利用している要支援者の実態を十分に把握し、期間を区切って「卒業」を押し付けることはしないでください。

平成28年4月からの総合事業実施に向けて、要支援者の実態を十分に把握してまいります。
事業内容については現在検討中です。

★イ. 指定事業者の「緩和した基準によるサービス」は導入しないでください。

事業内容については現在検討中ですが、厚生労働省の示している案及び近隣市町の動向を参考にしてまいります。

ウ. サービスについては、利用者の希望に基づく選択を保障してください。住民ボランティア等への移行を押し付けるような指導を行わないようにしてください。

事業内容については現在検討中ですが、厚生労働省の示している案及び近隣市町の動向を参考にしてまいります。

エ. 総合事業への移行に当たっては、介護予防訪問と介護予防通所介護を住民ボランティアなど「多様なサービス」に置き換えるのではなく、現行サービスの利用を維持したうえで、上乗せして新たなサービス・資源を作るという基本方向を堅持してください。

事業内容については現在検討中ですが、厚生労働省の示している案及び近隣市町の動向を参考にしてまいります。

②介護保険利用の際の手続き

★ア. 介護保険利用の相談があった場合、これまでと同様に要介護認定申請の案内を行い、「基本チェックリスト」による振り分けを行わず、要介護認定申請を受け付けた上で、地域包括支援センターへつなぐようにしてください。

平成27年度の介護保険法改正の趣旨を鑑み実施してまいります。

イ. ケアマネジメントについては、現行の予防給付と同様に居宅介護支援事業所への委託を可能とし、現行額以上の委託料を保障してください。

ケアマネジメントについては、現行の予防給付と同様に居宅介護支援事業所への委託及び委託料については、平成27年度の介護保険法改正の趣旨を鑑み実施してまいります。

③総事業費の確保と必要な補助(助成)

ア. サービスの提供に必要な総事業費を確保してください。地域支援事業の「上限」を理由に、利用者の現行相当サービスの利用を抑制しないで下さい。国または自治体の財政支援を行ってください。

新しい総合事業については現在検討中ですが、厚生労働省が示している総合事業の上限の範囲以内で行っていく予定です。

イ. 現行サービス利用を前提に、さらに地域の支えあいや地域づくりを促進するものとして位置付けてください。「助け合い」活動にかかわる住民・各団体の要望を尊重し、必要な施設・設備の提供や、必要な経費の補助(助成)を行ってください。

住民の「助け合い」についても、現在検討中です。

(4)高齢者福祉施策等の充実について

①高齢者が地域でいきいきと生活するために、以下の施策を一般会計で実施してください。

ア. ひとり暮らし、高齢夫婦などへの安否確認や買い物など多様な生活支援の施策を充実してください。

町独自サービスの緊急通報システム事業、町内の事業所との協定による見守り活動事業において、一人暮らしの方の安否確認を行っています。また、一人暮らし、高齢者夫婦で要介護認定を受けていない場合の緊急かつ一時的な生活支援として、買い物や調理などのホームヘルプサービス事業を行っています。

イ. 高齢者や障害者などの外出支援などの施策を充実してください。

豊山タウンバスを運行しております。ルートは小牧市民病院～豊山町内～県町～栄間です。

ウ. 宅老所、街角サロンなどの高齢者の集う場所を増やしてください。施設運営費用などの助成金を拡充してください。

第6次介護保険計画において、サロン等の検討をしているところです。

エ. 高齢者世帯が安心して暮らせる高齢者住宅を公営で整備してください。

町独自で行うことは困難です。

②配食サービスは、最低毎日1回は実施し、助成額を増やし利用者負担を引き下げてください。
また、閉じこもりを防ぐため会食方式も含め実施してください。

町独自サービスで配食サービス事業を365日実施しています。

③住宅改修費、福祉用具購入費、高額介護サービス費の受領委任払い制度を実施してください。

住宅改修費、福祉用具購入費の受領委任払い制度は平成24年4月から行っています。高額介護サービス費の受領委任払い制度は予定しておりません。

★(5)障害者控除の認定について

①介護保険のすべての要介護認定者を障害者控除の対象としてください。(税務課)

所得税法施行令第10条及び地方税法施行令第7条または第7条の15の8の規定に基づき、要介護1以上のものを障害者控除の対象としています。

②すべての要介護認定者に「障害者控除対象者認定書」または「障害者控除対象者認定申請書」を自動的に個別送付してください。(保険課)

対象となる要介護認定者に対して、「障害者控除対象者認定書」を個別に送付しています。

2. 生活保護について(福祉課)

★①生活保護の相談・申請にあたっては、憲法第25条および生活保護法第1条・第2条に基づいて行い、「申請書を渡さない」「就労支援を口実にする」「親族の扶養について問い合わせる」など、相談者・申請者を追い返すような違法な「水際作戦」を行わないでください。生活保護が必要な人には早急に支給してください。

関係法令に基づき、県福祉事務所の指導のもと、対応しています。

②扶養義務者への通知や報告の求めについては、国会の政府答弁や政令等で示されているように、福祉事務所が家庭裁判所の審判等を経た費用徴収を行うこととなる蓋然性が高いと判断するなど、明らかに扶養が可能と思われるにも関わらず扶養を履行していないと求められる場合に限られることを徹底してください。

関係法令に基づき、県福祉事務所の指導のもと、対応しています。

③国による生活保護費の引き下げに対して、就学援助や地方税の非課税基準、国民健康保険の保険料・一部負担金の減免など、生活保護費と連動する諸施策の基準引き下げが起こらないよう措置を講じてください。

関係法令の範囲内で実施しています。

★④ケースワーカーなど専門職を含む正規職員を増やしてください。また担当者の研修を充実させ、就労支援や生活指導を個別に丁寧に行うようにしてください。

現在の職員体制で十分に対応できていると認識しています。職員研修においては、県社会福祉協議会等が主催する研修会を活用しながら、知識や技術の習得に努めています。

⑤弱者の生存権侵害につながりかねない警察官OBの生活保護申請窓口等への配置はやめてください。

現在のところ、福祉課窓口に警察官OBを配置する予定はありません。なお、警察官OBを窓口等に配置することが、弱者の生存権侵害につながるとは考えていません。

⑥生活保護困窮者自立支援法に基づく「自立相談支援事業」は自治体直営で実施してください。また、生活保護が必要な人には受給手続きを紹介するなど、就労支援に偏らず生存権保障を重視してください。

関係法令に基づき、県福祉事務所が主体となって自立相談支援事業を実施しています。生活保護の受給については、関係法令に基づき、県福祉事務所の指導のもと、対応しています。

★⑦基準改定に伴う住宅扶助の引き下げについて、現行基準が適用できる例外措置について具体的な事例を記載したお知らせ文書を全生活保護世帯に送付して周知し、不当な減額や転居が起こらないようしてください。当事者が望まない地域や劣悪な物件など、意に反した勧奨は厳に慎んでください。

関係法令に基づき、県福祉事務所の指導のもと、対応しています。

★⑧冬季加算については、できる限り生活保護利用者の健康状態等に影響を与えないよう、次の諸点を周知徹底してください。

ア. 重度障害者加算を算定している人や要介護度が3以上または傷病・障害等による療養のための外出が著しく困難であり常時在宅をせざるを得ないなど、平成27年5月14日付保護課長通知が定める1.3倍基準を設定できる場合を具体的に記載したお知らせ文書を全生活保護利用世帯に送付して周知してください。

関係法令に基づき、県福祉事務所の指導のもと、対応しています。

イ. 上記の例外措置を柔軟に適用し、最大限活用することで、支給される冬季加算の減額を回避してください。

関係法令に基づき、県福祉事務所の指導のもと、対応しています。

3. 税の徴収、滞納問題への対応等(税務課)

①徴税は自治体の業務であることをふまえて、愛知県地方税滞納整理機構に税の徴収事務を移管しないでください。参加していない市町村は今後とも参加しないでください。

愛知県地方税滞納整理機構は自治体間の任意の協力のもとに設置された組織であり、法人格は有しません。また、機構で業務を行う職員は、参加自治体が派遣した職員です。したがって、機構が行う徴収は各自治体で行う徴収業務と同じであり、納税の意思が無い滞納者をはじめ、徴収が困難である事案を対象としています。税は公平に徴収する必要があるため、機構への移管は継続していきます。

★②税の滞納世帯の解決は、児童手当を差し押された鳥取県の処分を違法とした広島高裁判決を踏まえ差押禁止財産は差し押さえしないこと。住民の実情をよくつかみ、相談にのるとともに、地方税法第15条(納税緩和措置)①納税の猶予、②換価の猶予、③滞納処分の停止の適用をはじめ、分納・減免などで対応してください。

差し押さえについては、地方税法に基づき、社会情勢を勘案しながら行っています。また、必要に応じ、納税相談を実施し、適切な税の徴収に努めています。

4. 国保の改善について(保険課)

★①国の財政支援を抜本的に増額することを求めるとともに、国保財政を安定化し、保険料の大 幅引き下げを実現してください。

国に対する財政支援につきましては、県を通じて求めていきますが、現状、本町では保険税 の引き上げを抑えるため、税の不足分を一般会計からの多額な繰入金で賄っています。このた め、直ちに保険税の引き下げを実現することは困難です。

★②保険料(税)について

ア. これまで以上に一般会計からの繰り入れを行い、保険料(税)の引き上げを行わず、減免 制度を拡充し、払える保険料(税)に引き下げてください。

本町では、保険税の引き上げを抑えるため税の不足分をすべて一般会計からの繰入で賄っ ています。

イ. 18歳未満の子どもについては、均等割の対象としないでください。当面、一般会計による 減免を実施してください。

18歳未満の子どもを均等割の対象外とすることは困難です。

ウ. 前年所得が生活保護基準額の1.4倍以下の世帯に対する減免制度を設けてください。
生活保護基準引き下げにより、現在の対象者が縮小とならないようにしてください。

前年所得が生活保護基準額の1.3倍以下の世帯に対する減免制度を平成23年度に設けま した。

エ. 所得減少による減免要件は、「前年所得が1,000万円以下、かつ前年所得の10分の9 以下」にしてください。

現状は前年所得200万円以下としていますが、検討中です。

★③保険料(税)滞納者への対応について

ア. 資格証明書の発行をやめてください。とりわけ、18歳年度末までの子どものいる世帯、母 子家庭や障害者のいる世帯、病弱者のいる世帯には、絶対に発行しないでください。な お、義務教育修了前の子どもについては「保険証は1年以上」とし、窓口交付だけでなく、 郵送も含め1枚も残すことなく保険証を届けてください。

資格証明書は現在、発行していません。

イ. 滞納者に対し給付の制限をしないでください。「給付と滞納は別」であることから、滞納が あっても施行規則第1条「特別な事情」であることを申し出れば保険証を即時発行してくだ さい。

滞納者に対し、給付の制限は行っていません。

ウ. 保険料(税)を支払う意思があつて分納している世帯には正規の保険証を交付してください。万一「短期保険証」を発行する場合でも、有効期限は最低6ヶ月としてください。
納付状況や納税相談を通して、適宜配慮していきます。

エ. 保険料(税)を払いきれない加入者の生活実態の把握に努め、加入者の生活実態を無視した保険料(税)の徴収や差押えなど制裁行政をしないでください。また、無保険者の調査を実施してください。

滞納者には、納税相談の機会を設け、生活実態を勘案しながら対応していきます。差押えは悪質な滞納者に対する最終的な手段と考えています。

④一部負担金の減免制度については、生活保護基準額の1.4倍以下の世帯に対しても実施してください。また、一部負担金の減免制度を行政や医療機関の窓口にわかりやすい案内ポスター、チラシを置くなど住民に制度を周知してください。

一部負担金の減免制度については、平成23年4月1日から実施しています。

5. 福祉医療制度について(保険課)

★①福祉医療制度(子ども・障害者・母子家庭等・高齢者医療)を縮小せず、存続・拡充してください。
平成24年度に見直しを実施しましたが、未だ県下トップの水準を維持していると考えます。

★②子どもの医療費無料制度を18歳年度末まで現物給付(窓口無料)で実施してください。

現行の制度(入院・通院とも中学校3年生まで)は、一定の到達点と考えます。

③精神障害者医療費助成の対象を、一般の病気にも広げてください。

精神障害者保健福祉手帳1～3級を所持している方には、一般の病気も対象としています。

④国に対して、福祉医療助成に対する国保の国庫負担削減をやめるよう強く要請するとともに、当面は一般会計繰り入れで補てんしてください。

国保の国庫負担削減につきましては、県を通じて求めていきますが、本町では福祉医療制度予算を一般会計で計上しています。また、特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用して、現在の福祉医療制度を維持しているところです。

6. 子育て支援などについて(保険課保健センター・福祉課・教育委員会)

★①「子どもの貧困対策推進法」および「子どもの貧困対策に対する大綱」を受け、ひとり親世帯に対する生活支援施策の具体化を行ってください。

現在、母子父子家庭に対して子ども福祉手当や医療費を支給しています。

★②就学援助制度の対象を生活保護基準額の少なくとも1.4倍以下の世帯までとしてください。
また、年度途中でも申請できることを周知徹底し、支給内容を拡充してください。(教育委員会)

就学援助制度の生活保護基準額は1.2倍で、申請受付の窓口は町窓口です。年度途中の申請については広報により周知しております。

★③憲法による「義務教育は無償」の立場から学校の給食費を無償にしてください。給食費未納により給食が食べられない子どもをなくしてください。(教育委員会)

無償については、考えていません。

★④児童福祉法第24条1項に基づき、保育を希望する児童には公的保育による保育実施義務を果たしてください。認定子ども園、保育所、地域型保育事業による小規模保育や家庭的保育等、施設形態の違いによって受ける保育に格差がないようにしてください。

公立保育園を希望する児童を、公立保育園で受け入れるようにしていきます。

豊山町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準に定める条例等に基づいて保育格差がないようにしていきます。

⑤児童虐待や“いじめ”的早期発見に努め、重大事故とならないよう、情報公開を行い、防止対策を強めてください。そのためにカウンセラーなど専門職を配置してください。

県中央児童相談センター、尾張福祉相談センター、清須保健所、西枇杷島警察等、保育園、教育委員会、保健センターの各担当者で構成する要保護児童対策地域協議会実務者会議においてケース検討を隨時行っています。また、緊急ケースには関係機関と連携して対応しております。

⑥「新婚・子育て・ひとり親」世帯に家賃補助等の支援策を実現してください。

現在のところ、実施する考えはありません。

⑦妊産婦健診は、産前14回に加え、初回及び産後1回を無料で受けられる恒久的な制度にしてください。(保険課保健センター)

妊婦健診は産前14回実施しております。初回及び産後健診は実施しておりません。妊産婦健診の国庫補助がない状態では、今後の検討課題となります。

7. 障害者・児施策の拡充について(福祉課)

①障害者が 24 時間 365 日、地域で安心して生活できるよう、希望する障害福祉サービスが利用できるようにしてください。

障害者総合支援法に基づき、実施します。

②移動支援を、障害者・児が必要とする通学・通所に利用できるようにしてください。

地域生活支援事業については、利用状況を十分に聞き取り、時間数を配慮しています。

③障害者(児)の福祉サービスの利用料、給食費などの利用料負担を無償にしてください。

障害者総合支援法に基づき、実施します。

④障害児者へのインフルエンザ予防接種費用の補助制度を設けてください。

現在のところ、実施する考えはありません。

★⑤40 歳以上の特定疾患・65 歳以上障害者について、「介護保険利用を優先」と一律にすることなく、本人意向にもとづいた障害福祉サービスが利用できるようにしてください。

ア. 65 歳到達前に障害者本人の利用(意向状況)聴き取り調査を障害福祉と介護保険担当で行うとともに、障害者本人に制度の説明をおこなってください。

介護保険法の規定による保険給付が優先されることとなる旨の国からの通知に基づき、実施します。

イ. 介護保険の利用申請を行わない障害福祉サービス利用者に対して、障害福祉サービスの打ち切りをおこなわないでください。

関係法令等に基づき、実施します。

⑥通院時の院内介助や入院中のヘルパー派遣を認めてください。

障害者総合支援法に基づき、実施します。

★⑦相談支援事業は、基本相談や計画相談を丁寧に行える職員配置ができるよう、国に要望し、自治体でも補助してください。

障害者総合支援法に基づき、実施します。

8. 予防接種について(保健課センター)

①流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)、B型肝炎、ロタウイルスワクチンの任意予防接種に助成制度を設けてください。

流行性耳下腺炎、B型肝炎、ロタウイルスワクチンについては、現在予防接種法の改正が検討されていますので、現時点では補助は実施しておりません。

★②高齢者用肺炎球菌ワクチンの任意予防接種の助成を増額してください。

任意予防接種は4,000円の助成で実施しています。現時点では増額の予定はありません。

③妊娠を希望する夫婦及び妊婦の夫を対象とした風疹ワクチン接種は、無料で受けられるようにしてください。

風疹ワクチン接種は、妊娠を希望する夫婦に対して、指定医療機関にて無料で受けることができます。

【2】国および愛知県、愛知県後期高齢者医療広域連合に、以下の趣旨の意見書・要望書を提出してください。

1. 国に対する意見書・要望書

特に考えていません。

①消費税増税を中止してください。

②マクロ経済スライドによる年金切り下げをやめてください。若い人も高齢者も安心できる年金制度をつくってください。

③介護保険への国庫負担を増やして、負担の軽減と給付の改善をすすめてください。軽度者外しはやめてください。介護報酬を再改定し、事業所閉鎖などサービス提供の低下を防ぐとともに、介護・福祉労働者の安定雇用のために処遇を改善してください。

④子どもの医療費無料制度を18歳年度末まで現物給付(窓口無料)で創設してください。また、福祉医療助成に対する国民健康保険の国庫負担金の削減はやめてください。

⑤後期高齢者の保険料軽減特例見直しを行わず、国による財源確保のうえ、恒久的な制度としてください。

2. 愛知県に対する意見書・要望書

(1) 福祉医療制度について

県の助成対象拡大につきましては、県町村会などを通じて要望していきたいと考えます。

- ①子どもの医療費無料制度を18歳年度末まで現物給付(窓口無料)で実施してください。
- ②障害者医療の精神障害者への補助対象を、一般の病気にも広げてください。
- ③後期高齢者医療対象者のうち住民税非課税世帯の医療費負担を無料にしてください。当面、福祉給付金(後期高齢者福祉医療費給付)制度の対象を拡大してください。

(2) 県民の医療を守り、医療提供体制の充実のために

①市町村国民健康保険への県独自の補助金復活につきましては、県町村会などを通じて要望していきたいと考えます。

- ①市町村国民健康保険への県独自の補助金を復活してください。
- ②県が今後すすめる地域医療ビジョン策定にあたっては、安い病床削減を前提としないでください。また、策定委員会に医療提供者・地域住民・労働者の代表を入れるとともに、三者の意見を十分反映したものにしてください。

3. 愛知県後期高齢者医療広域連合に対する意見書・要望書

特に考えていません。

- ①低所得者に対し、独自の保険料と窓口負担の軽減制度を設けてください。
- ②一部負担金減免について、生活保護基準の1.4倍以下の世帯も対象としてください。
- ③後期高齢者医療葬祭費の支給に関して、申請勧奨してください。

以上